

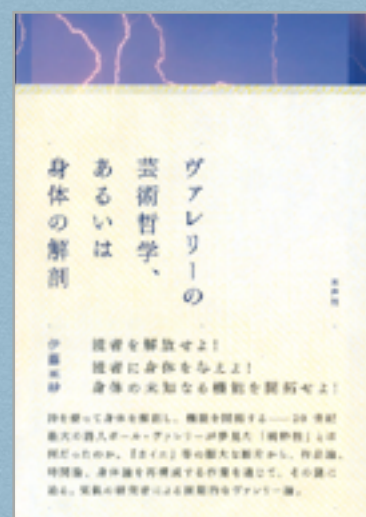
ケアから消費を考える

東京科学大学 未来社会創成研究院 DLab + ディレクター

伊藤 亜紗 Asa Ito

個人研究＝美学

芸術論



身体論

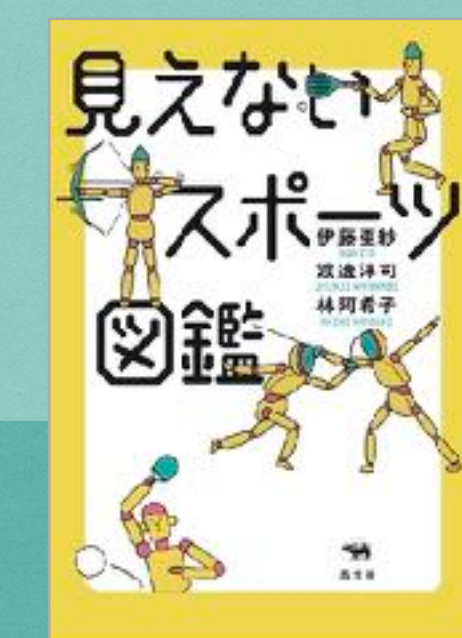


ケア論



文理共創研究

CREST



NTT

トヨタコンポン研
内臓つきAI

国際交流基金
ケアプロジェクト

企業/機関との共同/受託研究

未来の人類研究センター 初代センター長(2020.2-)

利他学



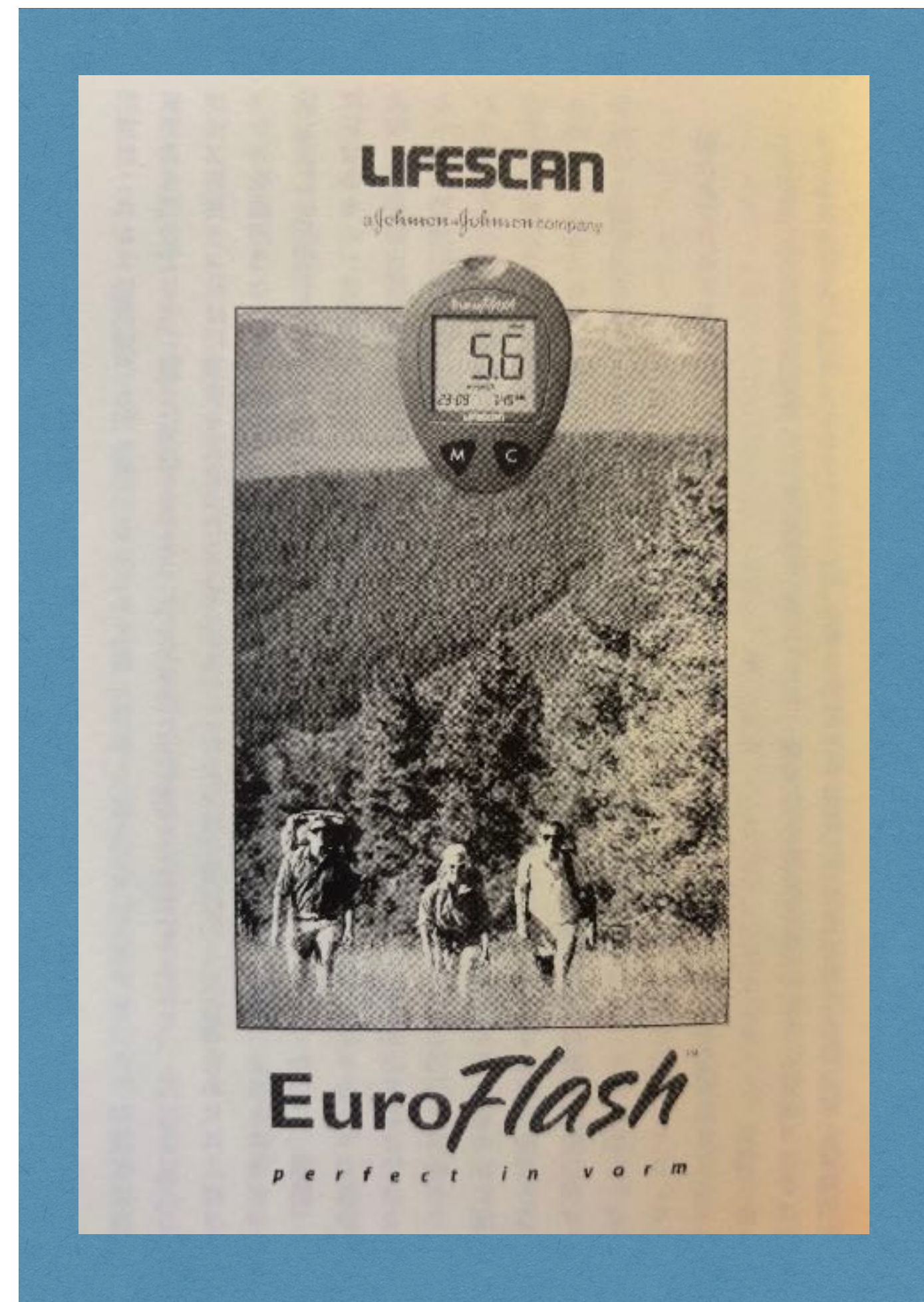
選択のロジック

選択＝主体の自由意志
能力のある健康で自律した主体
市民社会と消費社会の前提

ケアのロジック

ケア＝ひとつの目的のために複数の手
ままならない相互依存的な主体
よき生を送るためのプロセス





糖尿病患者向けの血糖値測定器の広告

自由（選択の主体）を強調し、

実際に山に行くために必要なこと（ケア）を隠す

- 多様なチームではなく個人
- プロセスではなく製品に焦点
- 目的と手段の関係を単純化
- 病気を例外状態とみなす身体観

	選択のロジック	ケアのロジック
主体	健康で自律的な主体	相互依存的な主体
善	自律と平等	気配りと具体性
悪	抑圧	放置
目的	製品の獲得	よき生という結果
決断	私的	ひとつの目的のもとにある複数の手
焦点	瞬間（意思）	プロセス（行為）
社会	個人→集団（足し算）	集団→個人（具体化）
生命観	病気は例外状態	ままならない身体
時間	直線的な時間 （中立的な）事実→（価値を伴った）選択→(技術的な)行為	曲がりくねった時間 手段が目的に干渉 絶えざる実験と手直し

選択のロジックの問題

①自律の名を借りた規範追従：ポストヒューマン的状况

- 成人健常者であっても、あらゆることに対して選択の能力を持っているとはいえない（cf.『今夜ヴァンパイアになる前に』）
 - 結局、「良いものとされているもの」を選択せざるを得ない
 - 自律が建前（自己責任）なので、相談も難しい
- SNSやAIの普及によって、規範そのものを操作することが容易になっている
 - 機械-人間複合体としてのエージェント（cf. 自動運転車、著作権…）
- 高齢者や知的障害者を例外的存在と位置付けている
- 一方で平等や人間らしさをどう守っていくか

②選択の私性と公共性の衝突

- 選択が私的なものに閉じてしまうことによって、公共的な利益がおびやかされる
- 公衆衛生、防災、環境保護
- アンチコモンズの悲劇：自由市場と私的所有のパラドックス（cf.『グリッドロック経済』）

(事例) 三年鳴かず飛ばずプロジェクト

- 東京・世田谷 賃貸住宅建て替えを地域の人を巻き込んで行う
- 都市計画道路施設により土地が二つに分断
- “100年後も残る風景”
- 建物とそれをケアするコミュニティを同時に育てる（commons的発想）
- 賃貸シェアハウス、マザーハウス、小屋型賃貸住宅、畑
- ヨイトマケ、棟上げ、餅まきなど建築のプロセスをイベント化
- 世田谷区「住みびらき」のノウハウの蓄積（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）
- 「青豆ハウス」（育つ賃貸住宅）など類似事例も

